

大枝山中一小鬼…日文研日記抄

劉 岳 兵

顧みれば国際的視野への開示、基本的原典への沈潜など研究者としてあるべき姿勢と素養、その大切さを切実に体得できたことは、日文研で一年間滞在の最大の収穫でありました。字数の制限があるため、滞在期間の日記を抄出し、感謝の気持ちをこめて、日文研創立三〇周年記念のお祝いとして公開させていただきます。(二〇一七年一月一日於魚鳶堂)

二〇一一年

一〇月三二日(月) 一二時一〇分、関西空港に着く。順調に日文研に到着後、事務の琴浦さんと西山さんから宿舎と設備の使い方の説明を受け、研究室の鍵を受け取る。

十一月一日(火) 午前、図書館で日本史学史関係の本を借り、自著『日本近現代思想史』一冊を寄付。一二時、笠谷先生が来所、一緒に赤鬼で昼食、諸事相談。一二時三〇分、研究部昼食会。その場で猪木所長、戸部良一、瀧井一博、劉建輝、徐興慶、劉克申、王確、楊曉捷ら諸氏と会う。午後二時、研究部井上章一主任が私の外国人研究員としての入所調印式を司会する。所長も参加。

十一月二日(水) 午後一時三〇分、所員会議で自己紹介。伊東貴之氏、稲賀繁美氏と会う。

十一月三日(木) 午前、京都「第三五回秋の古本まつり」(知恩寺で開催)に行く。

一月三〇日(水) 午後六時から一〇時まで、荒木浩、佐野真由子ら諸氏と共に「にこにこ会」に参会。楊曉捷氏が会の幹事。

二月二日(金) 午後、瀧井氏との交流。その新著『伊藤博文』を贈与される。伊藤博文を「近代日本を代表するデモクラシーの政治家」として高く評価した。

二月一〇日(土) 午後、笠谷研究班で発表。前田勉氏などと知り合う。懇親会の後、一行が八坂神社で月見をする(月食)。

二〇二二年

一月五日(木) 午後四時三〇分、日文研新年会。八八歳の梅原猛先生が元気に御挨拶を述べ、現任所長のご努力を高く評価し、四月に新任する小松所長に大きく期待していた。自分が怨霊を研究しているが、小松氏が妖怪を研究する。日文研にたくさんの面白い研究成果を待望する、と。荒木氏に岩波から出た「古典文学大系」と小学館の「古典文学全集」との関係について教えを乞う。

一月二三日(金) 午後、陳凌虹さんの博士論文公開審査会を傍聴。

一月二七日(火) 劉建輝、柳書琴両氏主宰の研究会「帝国」域内文化の再検証——人と物の移動を中心に」に参加。柳氏の報告における「被殖民の悲運におかれて「日本語」が台湾現代史に最初の言文一致の共同語になった」、「台湾文化としての日本語遺産」などの話に大きな衝撃を受けた。

一月二八日(土) 午後一時、戸部良一研究班「近代日本における指導者像と指導者論」に、黄自進氏の報告「蒋介石のリーダーシップ——滿州事変前後の対日政策を中心として」を聞

く。報告後、名刺交換。彼は院生時代に兪辛焯先生に教えを乞ったと言う。

二月五日(日) 引き続き笠谷研究班に参加。午後、伊東貴之氏の報告「明清交替と東アジア世界」の後、芳賀徹氏が「十八世紀京都の詩と絵画」というテーマで伊藤若冲の画を中心に発表し、一八世紀京都の文人生活に非常に憧れた。上垣外憲一氏が無断に発言し、笠谷氏がその発言をさえぎる。お二人は仲が良いなあ。

三月二三日(金) 午後、安田喜憲教授退任記念講演会(「環境考古学への道」)。その父の遺言である「弱者の視線よりしか歴史の真相を究明しえない」ということに感銘した。

三月二九日(木) 午後四時から、猪木所長退職記念講演「日文研で感じたこと、考えたこと」座無虚席。研究対象への興味を保持し、そのおもしろいところを見つけていることを強調していた。五時一五分から宴会。梅原猛先生もご挨拶の中で学問への興味が尽きないことを述べられていた。最後、所長はある綺麗な女史と共にピアノで一曲を演奏した。素晴らしかった！今日はメールで松田利彦氏の「韓国語講座」への参加を申請した。

四月七日(土) 一日中、ブリン研究班『『妙貞問答』の訳注・英訳・研究』に参加。参加者であるケンブリッジ大学のリチャード・パウリング教授の自己紹介によって『日本思想通史』を執筆中、しかも第一巻が既に完成したことが分った。一冊の拙著『日本近現代思想史』を差上げ、交流中、不意にお口から中国語が出てきた。しかも、そのきっかけはこの本を通読できるように中国語をよく勉強したいという話を聞き、その謙遜さ、さすがだなあと考えた。研究班で彼は「儒教之事」部分を担当したので、「太極図」に言及し、中国のそれに関する研究を知りたいと頼まれた。共同研究で原典翻訳のプロジェクトのやり方について、非常に参考になる。

四月一〇日(火) 立命館大学桂島宣弘研究室よりご送付の『東アジアの思想と文化』第四号を拝領。それに収録した拙論「中国における日本思想史研究の方法論的問題」ある学術史的回顧と展望(金津日出美訳)をコピーしてセンター諸先生のメールボックスに差上げる。岩波書店の馬場公彦氏に一部を郵送する。

四月一日(水) リチャード・パウリング氏にメールで「太極図」に関する次の研究書四冊を紹介する。『太極図集解』(王建常著、清麓叢書、一八七三年)、『太極図考』(楊踐著、学鐸社叢書、一九二五年)、『太極図詳解』(張伯行輯、学苑出版、一九九〇年)、『中華太極圖與太極文化』(東景南著、蘇州大学出版社、一九九四年)。

四月一九日(木) 末木文美士氏に台湾版の大正蔵のことについて教えを乞う。午後四時三〇分から六時まで第一八六回日文研木曜セミナー。末木氏が其の新著『哲学の現場』日本で考えるということ』について話す。瀧井氏司会、細川周平氏とクレインス氏がコメントする。

四月二一日(土) 午後、鈴木貞美研究班「東アジア近現代における知的交流——概念編成を中心に」を傍聴する。

五月七日(月) 正午、郵便物(殆ど古本)を整理するのは一つの楽しい作業。

五月八日(火) 午後、大貫恵美子氏に協力して「日本の古本屋」に登録。

五月二三日(水) 午後、日文研創立二五周年記念会。小松所長と梅原顧問がご挨拶。その後、図書館前の中庭でパーティー。クレインス氏は、用が有って参加出来ずと言った。パーティーでよくドイツのハンス・マーティン・クレーマ氏、チェコのヤン・シコラ氏などと交流した。聞いた話だが、ある人が日文研に就職した時、主人公なのに歓迎パーティーを中座した。理由は夜九時に寝なくちゃいけないからと。さすがにいい習慣だなあ!

五月二六日(土) 午前九時、京都駅で植村和秀氏と会って一緒に近藤啓吾先生を訪問しに行く。午後二時、近藤先生のお宅に到着。二冊の拙著を差し上げ、先生は真剣に目録をご覧になった。狩野直喜氏をとても尊敬し、服部宇之吉氏をある程度に批判。内藤湖南を非常に尊敬していたが、その弟子たちは先生の学問の一面しか体得しないと感嘆した。日本近現代思想について、キリスト教の一夫一妻制の積極的影響を高く評価した。また近代神道、儒学についても話した。貴重な一時間半だった。

六月七日(木) 最近疲労感あり、今日は「出恭」三回。七月一〇日のフォーラムのテーマが決まった。「中国式」日本研究の実像と虚像」(Images True and Fales: Chinese Style Research on Japan)。

六月二八日(木) 午後、韓国語講座。夜、楊曉捷氏の送別会。

七月一〇日(火) 午前、講演原稿をプリント。PPTの最終稿を研究協力課に送付。研究室で一回予演する。一二時五〇分、王鑫、傅玉娟、栄元と一緒に下山する。二時、ハートピア京都三階大会議室で第二五八回日文研フォーラム正式開始。笠谷先生司会。少し緊張したが、無事に終了した。ご質問に対してよく回答したと思う。

八月二三日(木) 夜、機械室で光田和伸氏と会う。一冊の複写製本した『藩風と藩学』を拝受した。

九月二二日(土) 午後、伊東貴之研究室に出席。垣内景子氏の報告「心学としての朱子学——

朱子の「理」批判と経学」が面白い。購入書目の初校が出来あがる。

九月二六日(水) 夜、徐興慶氏と劉克申氏の送別会。

一〇月七日(日) 研究室で梱包開始、二七箱作った。夜、両足無力、顔色青い。

- 一〇月一〇日(水) 六七箱目まで作り、梱包完了。研究室を掃除する。
- 一〇月一八日(木) 午後三時三〇分、岩波書店に行って馬場公彦氏と会う。『近現代中国の日本観』という本を書くことを勧められた。
- 一〇月二三日(火) 午前、ある海運会社の貨車が来た。六七箱の書物が日文研を後にした。
- 一〇月二四日(水) 午後六時から、私の送別会が開始、司会者は陳凌虹さんで、劉建輝、張翔、金哲会、陳小法、セオドア・F・クック、諸氏、及び栄元、王鑫、傅玉娟、簡中昊諸君。賑やかだった。私は「贈別京西大枝山諸友」三首を披露した。曰く…
- 其一…大枝山中一小鬼、青燈紙魚相依偎。風月殘卷風月解、旧夢未醒新夢催。
- 其二…君読幽月妾読夢、月印秋水夢無聲。誰知堂前空蟬鼓、尚欲振翅弄風情。
- 其三…春夏秋冬自流轉、学仏学仙心似遠。紅顏白髮無常夢、一彎新月枕万年。
- 一〇月二九日(月) 午後五時、笠谷先生のご招待で、私と張翔氏と三人一緒にタクシーに乗って日文研から市内へ。清水・京料理・日月庵に至る。満月、今夜の月が東山第二九峰——清水山の頂上にあり。
- 一〇月三一日(水) 午後、知恩寺で第三六回秋の古本まつりに行く。『春秋左氏傳校本』(尾張秦鼎校読)を競売の三六〇〇円で落掌。夜一時三〇分まで、研究室を整理し、そして翌日五時の予約車が来るまで宿舎の片付けをする。
- 十一月一日(木) 今朝五時、勿々に日文研を後にして帰国の途へ。関西空港で荷物の重量超過料金三一五〇〇円を払う。一一時二〇分、北京空港に着く。午後四時、無事に天津に帰る。

(南開大学日本研究院教授)